

横須賀市・新居浜市の「都市間交流協定」の締結について

1. 協定締結の背景

横須賀市と新居浜市は、互いに住友グループ企業が産業の礎を築いた都市で、企業の成長とともに、まちが発展してきた歴史があります。

横須賀市は、近代造船業の拠点として、新居浜市は、別子銅山を源流とする鉱工業の産業拠点として、日本の新時代の幕開けに大きな影響をもたらしました。

両市にはいくつもの歴史的遺構が存在していますが、特に横須賀市の「浦賀レンガドック」と新居浜市の「別子銅山の遺産群」は、当時の面影そのままに、今もなお市民の誇りとして引き継がれています。これらはともに、国の「近代化産業遺産群 33」にも認定されています。

住友グループによって築かれた近代化産業遺産という共通項により、これまでに両市は、観光資源の相互紹介など、緩やかな交流を重ねてきました。

そうした中で、横須賀市が令和3年3月に住友重機械工業株式会社から浦賀レンガドックの寄附を受け、また、新居浜市では住友共同電力株式会社から別子銅山の隆盛を支えた国の登録有形文化財である旧端出場水力発電所の寄附を受け、令和5年3月から一般公開されることが決まりました。

これらを契機に、先人たちが築いた近代化産業遺産を新たな価値として創造するとともに、常に変化を先取りし、両市の発展のみならず、住友グループの事業精神でもある利他の精神をもって、特に環境問題など、グローバルな課題に対しても積極的に取り組むため、「都市間交流協定」を締結します。

これにより、横須賀、新居浜両市の市民が、世界に誇れるまちになることを目指します。

2. 協定期間

令和4年10月16日～令和5年3月31日

※期間満了日の3か月前までに両市のいずれからも書面による解除の申し出がないときは、1年ごとに自動更新されるものとする。

3. 協定により両市が連携・協力し取り組む内容

- (1) SDGsの推進など、地球環境問題への取り組みに関すること
- (2) 近代化産業遺産を活用したまちづくりに関すること
- (3) 観光、物産の交流に関すること
- (4) 地震、風水害等に対する防災及び減災対策に関すること
- (5) その他両市が協議して必要と認めること

【参 考】新居浜市について

人口：約11万3千人

面積：234.5 km²

市制施行：昭和12年（1937年）

特徴：北は瀬戸内海に面し、南は急峻な四国連峰を望む自然豊かな都市。

住友重機械工業株式会社の創業の地であり、別子銅山の開坑以来、住友グループ関連企業群の拠点となった四国屈指の臨海工業都市。

（新居浜市に拠点のある主な住友グループ関連企業）

- ・住友重機械工業株式会社
- ・住友化学株式会社
- ・住友林業株式会社
- ・住友金属鉱山株式会社

